

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/A,Bユニット)

事業所番号	2794800066		
法人名	社会福祉法人なみはや		
事業所名	グループホーム松原なごみ		
所在地	大阪府松原市東新町5-4-10		
自己評価作成日	令和4年12月5日	評価結果市町村受理日	令和5年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念により、入居者の尊厳を大切に笑顔の日々を忘れず掲げており、入居者1名に対して1名の職員でケアを行っている。近場に公園があり、1対1で散歩を毎日実施しており、悩みの相談や、何か食べたい物をお聞きし、必ずフロアリーダーから施設長に上げ、レクリエーションにて行う(距離のある外出は控えている)
 新型コロナの渦の中でも、家族様に面会をしてほしい事から、月2回予約制・相談室にて1時間程面会をしていただく。家族様の要望でもあり、施設長の私用の携帯だが、LINE電話やメールでダイレクトに連絡を取っている。これを行う事により、生の声が聞こえる為、改善点や躍進に繋がる。言葉より行動を取る施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルスの感染が拡大したことで多くの事業所では対面での面会を制限したり屋外に出ることを止めてしまっている。しかし事業所では制限は儲けながらも感染に注意して家族との面会や近くの公園への散歩、車で今まで住んでいた自宅周辺をドライブするなどできるだけ馴染みの人や場との関係性が途切れないように配慮している。管理者は利用者、家族、職員との関係性を重視しコミュニケーションを取ることで、距離感が近く何でも相談できると家族へのアンケート、職員の面談でも信頼度の高さが評価できる。利用者を「物忘れがあり、介護が大変だ」とは思わず、介護をする中で「私はこう思うが、そういう考えや発想になるのか」と感心させられることがあるという職員は仕事が楽しいと話してくれた。事業所に入居したことで若返ったという家族からの意見がある。理念の通り笑顔を忘れず尊厳を大切にしているからこそ得られた貴重な意見である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】			

自己評価および外部評価結果 【2ユニット総合外部評価結】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、管理者が元、その考え方を職員に周知させ理解させながら行っています。	事業所開設時に職員全員で話し合い「入居者の尊厳を大切に笑顔と愛情の日々を忘れず」を理念とした。理念は常に職員の目に触れる各フロアの入口に掲示している。理念の唱和や振り返りを日常化していないが、職員との面談から職員自身が楽しんで介護をしていること、家族アンケートからは本人の生き生きとした表情や姿が見られるようになったとの評価を得ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの中、地域とは言えないが、自治会や施設の周辺の住宅の方たちとは関係性を絶やさず交流を守っている。	コロナ禍以前は公民館で行われる公民館カフェに参加していたが現在は自粛している。最近では皆と一緒に出かけるとはできないが、近くには公園やスーパーがあるので少人数で散歩や買い物に出かけている。自治会に加入し回覧板には「いつでも相談があれば対応します」と言葉を添えている。地域住民とは気軽に挨拶をして話をする等関係性は構築できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方達は理解していただき、入居されている入居者と地域の方達との関係性で知人が多く、助かっている面がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナにて、頻回に地域の方や家族に施設にての参加は難しいが、電話スピーカー等により、参加をお願いしています。	偶数月に利用者本人、家族、地主、近隣住民と事業所職員で会議を開催している。開催日時を固定せず家族の都合のつく日時で設定している。毎回違う家族が参加し運営について話し合いが行われている。近隣住民から高齢化が進み空き家も増えてきており、犯罪防止のため防犯カメラ設置の希望があり現在検討中である。議事録は全家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とあまり関わりが無く、書類上の事しか連絡が出来ていない状況。	市内の全グループホーム、地域包括支援センター、医師が参加し3ヶ月に1回グループホーム連絡会を開催し情報交換を行っている。運営について分からないことは介護保険課に問い合わせ確認したり、市が主催する研修の受講、生活保護受給者の受け入れを行い連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けており、全職員に周知し、過去から現在に至り、拘束0を行っている。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催し、年2回身体拘束と虐待についての研修を実施している。利用者がどこにも行けないという閉塞感を感じないように近隣に散歩をしたり、テラスで外気に触れられるようにしている。オーバーワークによるストレスや不満から拘束にならないよう管理者は職員の勤務調整をしたり、コミュニケーションを図りながら職員のストレス発散を行っている。	身体拘束廃止の指針があり委員会は3ヶ月に1回開催されているが、指針の内容を、身体拘束等の適正化のためのものへ見直しを望む。言葉による抑制や、声掛けの方法・対応について日頃からシミュレーションしておくことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設けており、全職員に周知し、家族からも綿密に連絡を取り合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の制度は、年1回研修で設けたり、職員に休憩中に観覧出来る様にし、契約時に家族様にも説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学時に、施設へのメリットとデメリットを十分説明し(契約時にも同じ事を繰り返しており)、理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ユニットの強みを活かし、日々管理者や職員が入居者さんや家族様から意見交換をしており、運営に反映されています。	事業所からの家族アンケートは実施していないが、利用者や家族からの信頼関係が得られるよう日頃から小まめに連絡したり、何かあれば直ぐに相談できる体制を取っている。運営推進会議は決まった家族の参加ではなく、順番制にして様々な家族が意見や要望が表せるよう、家族の参加できる日時に合わせて開催している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営ならび職員の意見は、管理者と職員間で、話しにくい事は、LINEメールや電話でやり取りしており、反映している。	フロアー会議、事業所全体での会議、リーダー会議を開催したり、会議以外でも職員から意見や要望を聞いている。職員がゆっくり休憩できるよう休憩室を作り更衣室のロッカーも整備した。職員からは管理者との距離が近く何でも言える関係性ができているとの意見がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が現場を熟知しているので、現場の各職員の気持ちが分かりやすく、環境を整える事により、入居者さんに大きく反映されると考えて、実行に移せる範囲は行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナで画像等により、研修案内はあるが、実践にて、身体で覚えてほしい為、リーダーが管理者で指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回、グループホーム連絡会があり、同業者と意見交換を交わし、サービス向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本氏と職員の関係性は初期段階で必ず築く様に努めているが、本氏との入居者さんが先に築く事が多く、職員も努力をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と密に連絡が取れる様に工夫して行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	先に安心の心を持って頂く様に、努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援している・支援されている概念を捨て、共同生活で、「1つ屋根の下」として、入居者同士は理解を得て、関係性が築けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	少ない面会の中ですが、十分に築けており、会社の電話から家族に電話する事もあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナで、「外出」や対人は難しい為、車にて住まれていた周辺へドライブする時がある。	面会時間や回数の制限を設けながら、家族との関係性が途切れないよう面会ができるようにしている。散歩や直ぐ近くの買い物以外思うように外出ができないため、今まで住んでいた周辺に車で出かけ車窓から懐かしい風景を見て来るなど、馴染みの人や場との関係性が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士、仲が良く、現在トラブルは無いが、あった場合は、家族や職員と話し合い、フローア異動する場合がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、管理者が相談に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見と意向を大切に、困難な場合のみ、互いに妥協点を職員と本氏で考え、実践している。	利用者に意向を聞くと大方の利用者が食べたい物を言う。寿司や豚まん、回転焼き、ファストフードなどドライブスルーで買って車の中で食べたり、テイクアウトで持って帰って食べることもある。実現が難しいことは話し合って決めたり、自分で意向の伝えられない場合は利用者の立場になり思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本氏と家族様から情報収集し、レクリエーション等に入れ込み、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る面、出来ない面を分析しながら、1人1人に役割をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本氏、介護支援専門員、管理者、職員、家族からアセスメントとモニタリングを繰り返しながら発見に努めている。	利用者の状態や生活状況は、毎月行われるケア会議やモニタリングで詳しく報告され計画作成担当者によって介護計画が作成される。状態が変わった時や必要時にはアセスメントを実施し適宜介護計画の見直しを行う。家族に計画を説明して、サービスが開始されるまでに同意を得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現場の力により、発見し職員の記録や意見を根拠に実践や介護計画が活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援を臨機応変に対応し、結果に繋がる様に、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナと住民の活気が無く、取り組んでいるが、空き地が多くなり、なるべく周辺から固めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要性が生じた場合、ダイレクトにドクターや看護師に連絡を取り合い、ドクターから家族へ連絡をしていただいています。本氏の意見を汲み取りながら。	特別疾患患者を除き、ほぼ全員が協力病院の医師による訪問診療(内科)、(精神科2~3割)、(歯科希望者)を受けている。検査は必要時に管理者または主任が同行し家族は病院で待機、皮膚科・眼科は家族対応とするが柔軟に対応している。常勤看護師と訪問看護師との連絡・連携による健康管理体制と管理者を加えての入院対応について、家族からの安心と信頼の声がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、最低週1回以上は施設へ訪問し(当施設でも看護師1名雇用)、連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関により異なりますが、本氏に合った状態で、早期退院を各地域連携室には、ご相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですること十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では、看取りは行っておらず、契約時に本氏があったサービス案内やサポートの説明を十分に行っている。	契約時に、看取り不可について重要事項説明書で十分に説明、合意を得ている。看護師、職員による出来得限りのケアを行い、家族の納得で病院搬送としている。昨年度は、搬送先で4名が亡くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応は、常にフロアのキッチンに貼り出しており、全体会議で周知もさせている。必ず病院へは、管理者も向かう事としている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練では不安な為、ADL向上に繋がる為、レクリエーションの散歩と題して、訓練する場合がある。	本年度既定の2回目は令5年2月に実施予定である。訓練には1階の利用者が参加、加えて歩行訓練も含めてのミニ訓練がある。地震・風水害への対策と備蓄品については検討を要する。近隣との協力についての実績は見られないが、避難場所としての受け入れも含めてのお互い様の関係構築を深めたいとしている。	利用者と職員が避難後に生活できるための備蓄品について、内容的に量的に再検討するとともに、備えの物品での生活体験の検討と実施を望む。近年の予期せぬ大きな自然災害を見据えて、各種災害マニュアルの見直しと、BCP策定の促進を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本、自由に過ごしていただいております。常にコミュニケーションを図る場面等、職員が作っている。	認知症だからの意識を先行させず、その人を理解して、人生の先達として敬い、対等な人間関係を保つことを基本に、接遇時の言動に注意するよう努めている。「尊敬と愛情を忘れず」に、利用者の自由を見守り、護りたいとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本氏が出来る事は、本氏で行っていただくのが、施設の考えの1つで、選ぶのも自由に決定していただいているが、必要性がある場合は、職員と一緒にいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等、その時の気分に沿って合わせていく事が大切だと感じて実行しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設側から家族様へお願いし、今のデザインで洋服の購入を依頼している。家族が困難な場合（管理者が代行で購入しに行く）		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の料理で飽きがある為、昼食レクで寿司やバーベキューを取り入れたりしている。その際に、役割分担をお願いしています。	業者による献立付き食材を、各フロアで調理している。食レクとして、寿司・ファストフードなどのテイクアウトやおやつ作り、テラスでのバーベキューを楽しんでいる。外食は無理だが、車で管理者と3人ほどがスーパーでの好物を1ヶだけ内緒で食べたエピソードを持ち笑顔が想像できる。日常での準備や片付けの参加は重度化などで無理としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1度、栄養士が訪問し、指導を行っている。(現在、新型コロナで資料配布のみ) 食品会社からも月に1度、アンケートや話し合いがある為、入居者さんの意見に反映させている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	先に本氏の力にて行い、本氏から職員にて、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは記録に残しており、全職員が周知し管理をしている。トイレ迄に間に合わない方等は、本氏に確認を取りながら、居室にポータブルトイレを設置したり工夫を考えている。	夫々の状態に応じて、紙パンツなどの排泄用品を使用しているが、尿路感染防止を重視して家族の了解の下、パットなどは吸収量に応じて頻りに交換するなど適宜適切に対応している。基本、自分で出来る動作には出来る限り見守りに対応してトイレでの排泄をと心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に関しては、一口大、きざみ、ミキサー、トロミ粉迄、対応を行っている。 水分量も1日の目安を決めており、飲料なども工夫(アクエリアス・コーヒー・紅茶)している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合わせて入浴剤とお花を添えて、楽しんでいただいている。 入浴時間や日は基本は決めているが、気分によらない場合、違う日程にしたり、工夫をしている。	週2回、午前中を基本として、柔軟に対応している。重度者の二人介助は職員の負担増となるため、座位保持者はシャワー浴とし、無理な人(2名)は、清拭だけで済ませずに管理者がマット上でのお湯かけでお風呂気分を出している。花屋(元家族)の協力で、季節の花びらを浮かせた湯ぶね等の楽しみがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせて、電気の調整、環境を整えて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	紛失や誤薬を防ぐ為、職員が一人一人確認をしながら、口の中迄、支援を行っており、薬の管理は施設側で行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	潜在している記憶や、出来る力を活かせる様に、本氏の意見を実行に反映させながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナにて、外食は困難と家族様には伝えており、本氏のご自宅への外泊は可としている。	コロナ禍による規制で、この3年ほどは従来の外出支援は皆無としている。極近くの公園に、毎日午前・午後1名ずつ散歩に出掛ける、建物周囲をぐるりと歩く、玄関前の椅子で外気浴を励行している。冠婚葬祭、年末年始の外出・外泊は認めることを家族に知らせている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本氏自身の金銭管理や施設側では禁止にしているが、施設側が立て替えて、一緒に買い物に行き、お支払いとお釣りが出てくる迄は、行っていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本氏や家族様へは、電話は午前9時～午後18時迄は、可にしているの、よく連絡を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアに、なるべく物を置かず、落ち着く空間作りや、ライトの調整も行っている。	明るく、落ち着いた雰囲気のリビングは、食後にちょっと休憩のソファとテレビ、集いのテーブル配置以外には余計なものは置かず、壁面の飾りも必要な掲示だけで、シンプルながら温かい雰囲気の佇まいとなっている。夜間には暖色系照明の明るさを調節しているとのことだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本、自由に過ごしていただいおり、職員がタイミングを見計らい、間を取りまとめる部分見受けられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本氏や家族からの希望に沿い、心地のよい空間作りを心掛けています。	認知症症状により、既設のベッド、クローゼットに最小限の私物がある居室と、既設のベッド、クローゼット、テレビ、小ぶりのキャビネットの上に家族写真やプリザーブドフラワー、ベッドや床面に置かれた大小幾つかの縫いぐるみなどで、温かい雰囲気のマイルームがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何もかも散乱しての飾りつけや、必要な物以外は置かず、季節に沿って、シンプルで分かりやすい物を定期的に変化させています。		